

大圓寺だより

我れ日本の柱とな
らむ、
誓いのこと
になったお

我れ日本の眼目と
ならむ、
ばです。
全ての日

我れ日本の大船とな
らむ等とちかいし願、
救済するた
めのお誓い
です。

日蓮聖人御誓願

右は日蓮聖人が開目抄
(文永九年 一二七二年
五十一歳)の中でお述べ

この誓願
を達成する
ためにご自
身のお命が



お綿帽子

文永元年(1264)11月1日小松原(現千葉県鴨川市)で地頭東条景信等に襲撃されその時受けられた傷が冬は痛むので和らげる為にする作法

危険に晒され
た事が大き
き四回ござ
いました。
日本の国
会議員さん

今年から お施餓鬼法要の

日程が変わります

詳しくは巻末ページで

発行所
大圓寺

TEL 045-641-4933
FAX 045-664-2751
Eメール daienji@gmail.com

NO 122

令和七年初題目会

一月十四日(火)

午後一時 初題目会 お加持

午後二時 厄除け祈禱

おしるこ接待(祈禱餅にて)

祈禱札

家内安全木札 三〇〇〇円

交通安全札 三〇〇〇円

釜 二〇〇〇円

厄除け祈禱 三〇〇〇円

厄年

男性 平成12・13・14 昭和 58・59・

60 昭和39・40・41

女性 平成18・19・20 平成4・5・6

昭和63 平成1・2

*お申し込みは一月五日までに手紙かFAXで
*昨年のお札はこの日にお寺にお納め下さい

永代供養ご先祖がお選びになった

菩提寺 大圓寺で

他の霊園のお檀家様もお移しになられてます

の事件を見ると情けなくなつて参りますね。

長くかった夏が終わつたと思つたら秋が殆ど無くもう冬の寒さがやってきました。

お変わりなくお過ごしのことと存じます。

ここのところ日本・米
国とも政治がかまびしかつたですね。

与党が議員数を落とし、
野党が進捗しました。

不安定さは否めなくなつて参りました。

また、米国では再びトランプさんが返り咲きました。

多面性を持った人柄と
のこと、日本の対応が
デリケートにならざるを得ないでしょうか。

難しい対応が求められ

ます。

さて、来年のお檀家の皆様のご多幸・家内安全を祈念したお札をお届けいたします。

このお札は、既報のよう
に三日間本堂にて読経したものです。

本来は正月の一日〜三日
日まで、ご宝前にお奉りして祈願したのですが、
今日ではお檀家様が各地に
転居されてしまいましたので、
個別にお届け出来なくなつたため郵送
しております。

それ故、郵送の時間等を
考慮するとこうした形
にならざるを得なくなりました。

お届けしました封筒の
ようなお札は「御守護札」
で皆様の家の玄関の上

に貼つて、外から「魔」
が入ってくるのを防ぎま
す。場所は玄関の内側で
も外側でも大丈夫です。

そして、「大歳三ヶ日」
と真ん中に書いてあるお
札はお仏壇の左右どちら
でもよろしいので納めま
す。

去年のお札はこの十四
日の「初題目会」の日に
お寺に納めます。

大圓寺でもこうした年
中行事を開催して皆様に
お釈迦様の教えをお伝え
し、法華経を命を掛けて

お弘めになった
日蓮聖人のご修
行に触れていた
だき、人間とし
ての高い人格を
獲得すべく精進
する機会を催し

ております。

ご自宅のお仏壇の前で
の御修行も大事ですが、
大圓寺の本堂での清浄な
環境で多くのお檀家様と
一緒にお唱えするお題目
は清々しい心を与えてく
れます。

どうぞ、お時間をお作
りになつてお詣りくださ
い。

枝垂れ桜を伐採

境内の南側に三本の枝
垂れ桜が植えられており





伐採前の境内地



伐採後一抔のさみしさを 覚える境内地

ました。
ご存じのように桜の木の成長は早く瞬く間に大



きくなりました。
この枝垂れ桜の植えてある間隔が変則であったため、近づきすぎた二本が互いの枝がぶつかり合ってきてしまいました。

そのため、この度切除することといたし、去る十月七日に供養のご回向を奉行し

切除致しました。もつと考慮して植樹すべきであったと思い、お詫びしながら法要をお勤めいたしました。
南面を眺めるたび寂しさを覚えております。

お施餓鬼法要

日程変更

お盆とお施餓鬼は、本来別の行事でありました。お盆は目連尊者がお母様を餓鬼道からお救いをしたと言うことに端を発したことはご存じ名とおりです。

しかし、お施餓鬼は「仏説救拔焰口餓鬼陀羅尼經（ぶつせつづくばつえんくがきだらにききょう）」によるところの十大弟子

のお一人である阿難尊者（アーナンダ）にまつわる事でございます

阿難尊者が、瞑想しているときに、口から炎を吐く焰口餓鬼（えんくがき）が現れ、あと三日でお前も死んで俺たちと同じ餓鬼道に落ちるのだと言われました。

阿難尊者はそうした餓鬼たちと自分が救われるために、お釈迦様に教えを請ったところ 餓鬼道から救われるためには、三宝（仏法僧）に供養して、餓鬼たちに食べ物を施せば、その功德により餓鬼も救われ、阿難尊者も救われるだろうとお教えになられました。

この教えに従い、阿難尊者は寿命を伸ばし、多

くの餓鬼も救われたと書かれています。

お施餓鬼は、餓鬼だけではなく、ご先祖様や広く無縁の諸精霊を供養し、また私たちの仏道成就を願うための修行の場です

さて、日本もかなり前から異常気象に見舞われておりました。

しかし、昨年、今年と二年続けての酷暑となりました。

ご承知のように大圓寺の本堂は、建築費の全てがお檀家様のご寄付で建立され、近隣に無い木造建築の高度な技で建てられております。

既報のように全てが樫であり、釘を使わず「出組」や「ホゾ継ぎ」を用いております。

建築から五十五年近く経過しておりますが、この間、小さな修理は多数行っても、本堂の景観・造作は建築時のままでございます。

令和7年から

5月20日に
変更致します

なります。

当時の建築技術の最先端を駆使して建立した建物でも、素地がセメント中心であるため、限界となつたとのことでした。大圓寺本堂は、前述の

この本堂

と同時期に東京の中野サンプラザがオープンでしたが、この度老朽化とこのことで、取り壊しに

ように木材としては強固な樫で建立されているため、コンクリ制のような限界は見受けられません。奈良の法隆寺は樫ではありませんが千三百余年の歴史があります。

大圓寺の本堂も此処を目指して保存をすべく心がけております。

酷暑の夏であっても、本堂にクーラー設備を導入しないのは、冷房が木材を極度に収縮させてしまふと考えているためです。

出組やホゾ継ぎで釘を使わず建てられた本堂は、木材の収縮は倒壊の原因ともなります。

このような事情から、熱中症の危険を伴う酷暑の夏を避け、まだ穏やか

であろう五月に「お施餓鬼」を行わせて頂く事にいたしました。

ご周知のとおりお盆は七月の十五日と日が決められております。

しかしお施餓鬼はそうした日取りの取り決めはございません。

令和七年からお施餓鬼の日程は変更いたしますが、お盆は前述の理由にて日程変更は困難です。従来通りお勤めさせていただきます。

従って、**お盆のお経には今まで通りお伺いさせていただきますし、お新盆会もお盆の時期に厳修いたします。**

どうかご理解頂き多数の方のお詣りをお待ち致しております。